観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月 30 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	公益社団法人　香川県観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	香川県全域：8 市 9 町 高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市、さぬき市、東かがわ市、三豊市、土庄町、小豆島町、三木町、直島町、宇多津町、綾川町、琴平町、多度津町、まんのう町	
所在地	香川県高松市	
設立時期	昭和 45 年９月（平成 25 年４月１日付けで公益社団法人に移行）	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	8 人【常勤 8 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 三矢　昌洋 （出身組織名） 香川県ホテル旅館生活衛生同業組合	香川県ホテル旅館生活衛生同業組合の理事長として、長年にわたり、本県の観光振興の牽引役として尽力してきた。平成 26 年 5 月に（公社）香川県観光協会の会長に就任し、「香川せとうちアート観光圏」や日本版ＤＭＯの整備、全県的なおもてなし運動の展開などに積極的に取り組んでいる。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 佐藤　今日子「専従」	令和４年８月に（公社）香川県観光協会専務理事に就任。就任前は、香川県職員として観光分野の職務に長く携わったほか、文化振興分野では「瀬戸内国際芸術祭」の実行委員会事務局において中心的役割を果たすなどの実績を残している。「香川せとうちアート観光圏」ではその人的ネットワークや専門知識を生かし、中核的な役割を担っている。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 宮崎　達朗「専従」	令和７年４月に（公社）香川県観光協会の事務局長に就任。香川県職員としての勤務経験を生かし、当協会の運営収支や財源確保等に関する中心的な役割を担っている。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右	（氏名） 宮崎　達朗「専従」	令和７年４月に（公社）香川県観光協会の事務局長に就任。香川県職員としての勤務経験を生かし、当協会の運営収支や財源確保等に関する中心的な役割を担っている。

様式１

横に「専従」と記入すること		
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 青木　智佳（専従）	(株)高松リビング新聞社に約 25 年間勤務し、地域情報誌の企画・執筆・編集等に従事。平成 26 年７月から（公社）香川県観光協会で勤務。観光庁認定の観光地域づくりマネージャー。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	マーケティング：香川県交流推進部交流推進課 国内プロモーション：　〃　〃　観光振興課 海外プロモーション：　〃　〃　空港振興課 地域公共交通：　〃　〃　交通政策課 県産食材・県産品：　〃　〃　県産品振興課・農政水産部各課 農泊海外発信事業：　〃　農政水産部農政課 社会資本整備：　〃　土木部各課 観光振興全般：各市町観光担当課　など	
連携する事業者名及び役割	各市町観光協会（地域内の連絡調整、滞在プログラム） わがかがわ観光推進協議会（まちづくり型観光、おもてなし） てくてくさぬき推進協議会（地域内の連絡調整、まち歩き） 香川県ホテル旅館生活衛生同業組合（地域内の連絡調整） さぬき瀬戸塾（地域内の連絡調整） （一社）香川県婦人団体連絡協議会（地域内の連絡調整） 株式会社百十四銀行（地域内の連絡調整） （一社）全国旅行業協会香川県支部（旅行商品の造成） （一社）日本旅行業協会中国四国支部香川地区委員会（旅行商品の造成） （一社）かがわ県産品振興機構（県産品の開発・支援） 四国旅客鉄道株式会社（交通アクセス） 高松琴平電気鉄道株式会社（交通アクセス） 香川県旅客船協会（交通アクセス）　など	
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】①、② （概要） ①役員として、県下の各市町観光協会の長に加え、宿泊事業者や二次交通事業者、旅行業事業者の団体の長が就任している。 ②観光圏整備法に基づく観光圏として認定された「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割を担っており、県や市町、市町観光協会、関係団体をメンバーとする観光圏戦略会議やワーキンググループを設置している。 〔参考〕登録要件 ①取締役、理事など観光地域づくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画 ②観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	○香川をもっと深く知って郷土愛を育み、県外からの観光客におもてなしの心で接してもらうため、香川の観光・歴史・文化・食などの様々な分野に精通した講師による県民向け講座「さぬきアカデミー」を開催している。 ○県民全体で観光客へのおもてなしの気運を高めるための「おもてなし運動県民集会」、観光従事者・タクシー事業者・バス従業員・経営者向けの「おもてなし研修会」を開催するとともに、「香川おもてなしタクシー」の認定を行うなど、全県的な「観光香川おもてなし運動」を展開している。	
法人のこれまでの活動実績	**【活動の概要】**	

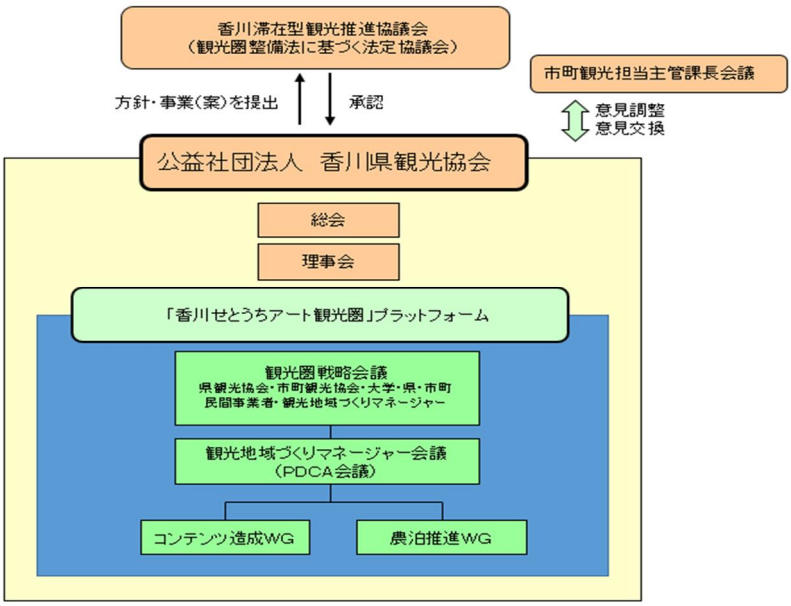
様式１

当協会は、観光事業の振興を図り、観光団体との連絡協調を行うとともに、国際観光の振興を促し、地方文化、産業の発展に寄与することを目的として、会費収入や香川県等からの補助金等により、情報発信・プロモーション、観光客の受入環境の整備、観光資源の磨き上げに関する事業などを実施している
（以下は、令和６年度に実施した主な事業）

事業	実施概要
情報発信・プロモーション	○海外からの観光客誘致事業 高松空港の国際定期路線の就航先であるソウル、上海、台北、香港に加え、チャーター便の誘致や乗継ぎによる誘客が期待できるタイ等を中心に、各市場の最新の動向やニーズ等に応じて、SNS などを活用した効果的な情報発信や、各市場の旅行会社等へのセールス活動などを行った。 ○魅力発見ハッシュタグキャンペーン事業 旅行者や県民等に県内の魅力や感動を SNS に投稿してもらうキャンペーンを実施することで、全国に向けた情報発信を行った。 ○国内航空路線活用誘客事業 ジェットスターと連携した各種キャンペーンやＳＮＳを利用した情報発信など、成田－高松線を活用した本県への誘客を図る観光プロモーションを実施した。 ○ウェブ観光情報提供事業 県公式観光サイト「うどん県旅ネット」において、旬できめ細かな観光・イベント情報をテーマごとに発信するなど、観光客等のニーズに合った情報を効果的に提供した。 ○うどん県アート県ブランドプロモーション事業 パブリシティサポート活動、株式会社ポケモンとタイアップしたプロモーション（ヤドン）、包括連携協定を締結したＡＮＡ及びＪＡＬと連携した情報発信などを実施した。 ○香川フィルムコミッション事業 映画、テレビ、コマーシャルなどのロケ撮影の誘致に努めるとともに、ロケ地の紹介、エキストラ、ボランティアの募集など、撮影の円滑な実施のために必要な支援を行った。 ○刊行物等の発行 各種パンフレットやカレンダー等を発行した。
受入環境の整備	○外国人観光客受入拠点事業 JR 高松駅の駅ビル内（高松オルネ北館１F）で観光案内所を運営するとともに、外国人観光客等の利便性の向上を図った。 ○外国人観光客受入環境向上事業 観光施設・宿泊施設・飲食店等への多言語通訳・翻訳サービス支援、グルメやショッピングなどの情報を掲載した多言語ウェブサイト等での情報発信、外国人観光客向け文化財等周遊促進のためのウェブサイトの運営、外国人観光客へのウェブ等を活用した災害時等の情報提供などを実施した。 ○観光施設等のトイレ洋式化事業 観光施設及び交通施設が行うトイレの洋式化の整備費用の一部を補助した。

	観光資源の磨き上げ	○周遊型・体験型旅行商品造成事業 観光地や伝統的町並み、現代アートをはじめとする芸術・文化や産業など、本県の豊かな地域資源を生かした周遊型・体験型の旅行商品の造成に向けた協議を行った。 ○島へ行こうキャンペーン事業 　多島美を誇る瀬戸内の素晴らしさを改めて感じてもらうツアーの造成・販売を行った。
		【定量的な評価】 ○県外観光客数 H28 年：約 9,368 千人 H29 年：約 9,464 千人 H30 年：約 9,416 千人 R 元年：約 9,687 千人 R２年：約 6,184 千人（新型コロナウイルスの影響により、前年比 36.2%減） R３年：約 5,818 千人（新型コロナウイルスの影響により、前年比 5.9%減） R４年：約 7,770 千人 R５年：約 8,987 千人 R６年：約 9,262 千人 ※出典：香川県観光客動態調査報告 ○外国人延べ宿泊者数 H28 年：約 358 千人 H29 年：約 482 千人 H30 年：約 546 千人 R 元年：約 772 千人 R２年：約 75 千人（新型コロナウイルスの影響により、対前年比 90.3%減） R３年：約 14 千人（新型コロナウイルスの影響により、対前年比 81.3%減） R４年：約 34 千人 R５年：約 445 千人 R６年：約 907 千人 ※出典：観光庁宿泊旅行統計調査
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。		**【実施体制の概要】** ○公益社団法人として、総会及び理事会を定期的に開催している。 ○当協会の役員として、県下の各市町観光協会の長に加え、宿泊事業者や二次交通事業者、旅行業事業者の団体の長が就任している。 ○当協会の会員として、市町や市町観光協会、各種観光関連団体等が加盟しており、令和７年６月末現在の会員数は 274 となっている。 ○当協会は、観光圏整備法に基づく観光圏として認定された「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割も担っており、当プラットフォーム内に、県や市町、市町観光協会、宿泊施設、大学、交通機関、NPO 法人、文化や食、農業関係団体をメンバーとする観光圏戦略会議を設置し、関係者の合意形成を図っている。 ※観光圏戦略会議の構成員 ・観光地域づくりマネージャー ・県内各市町（市町担当課長） ・県内各市町観光協会（事務局長等） ・宿泊施設（県ホテル旅館生活衛生同業組合、ゲストハウス等） ・大学 ・民間（金融機関、鉄道事業者、ＮＰＯ法人）

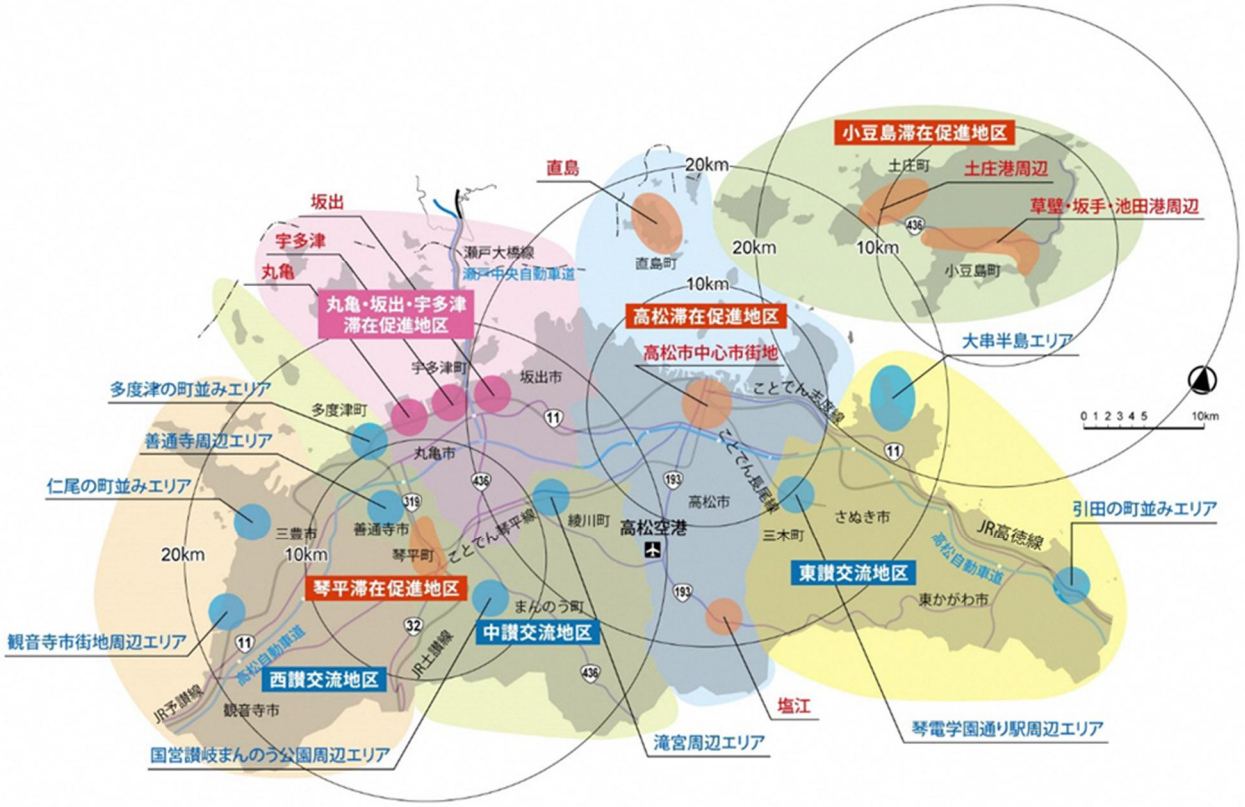
様式１

	・まち歩き団体（てくてくさぬき推進協議会） ・文化（県立ミュージアム） ・食（さぬきうまいもんプロジェクト実行委員会） ・農（かがわグリーンツーリズム推進委員会） ・四国運輸局（オブザーバー） ※観光圏整備法に基づく法定協議会として、県や市町、市町観光協会、関係団体で構成する「香川滞在型観光推進協議会」を設置している。 【実施体制】 

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

〇香川県全域：8 市 9 町



	市町名	名　称	活用方策
観光資源	高松滞在促進地区	栗林公園、史跡高松城跡　玉藻公園、屋島、北浜 alley、仏生山の町並み、塩江温泉郷　など	〇栗林公園や屋島、小豆島,琴平といった、本県を代表する老舗観光地を擁し、宿泊施設も集積している高松、小豆島、琴平を拠点として、特色ある県内の各観光地を周遊する滞在プログラムの企画促進、魅力向上を図る。 〇滞在プログラムの企画にあたっては、県内全域で盛んに行われている、地域住民が主体となり、地域の歴史、文化、自然、産業、食などを、地元が知り尽くしたガイドが案内するまち歩き「てくてくさぬき」の取組みで蓄積してきた人材やノウハウを活用する。
	小豆島滞在促進地区	オリーブ公園、寒霞渓、銚子渓、エンジェルロード、二十四の瞳映画村、迷路のまち、醤の郷、小豆島温泉郷　など	
	琴平滞在促進地区	金刀比羅宮、こんぴら温泉郷　など	
	丸亀・坂出・宇多津滞在促進地区	丸亀城、うちわの港ミュージアム、ニューレオマワールド、中津万象園、瀬戸大橋記念公園、宇多津古街、四国水族館　など	
	東讃交流地区	大串自然公園、津田の松原、大窪寺、平賀源内記念館、日本ドルフィンセンター、讃州井筒屋敷、ランプロファイヤ岩脈、しろとり動物園、とらまる公園　など	
	中讃交流地区	善通寺、滝宮天満宮、綾川町うどん会館、柏原渓谷、多度津の町並み、国営讃岐まんのう公園など	
	西讃交流地区	琴弾公園（銭形砂絵）、荘内半島（紫雲出山）、本山寺、宗吉瓦窯跡史跡公園、仁尾の町並み、父母ヶ浜、高屋神社　など	

文化・アート資源	高松滞在促進地区	イサム・ノグチ庭園美術館、香川県庁東館、Liminal Air −core−、ジョージ ナカシマ記念館、男木島や女木島の現代アート、地中美術館、ベネッセハウス ミュージアム、ANDO MUSEUM、李禹煥美術館、家プロジェクト、NAGARESTUDIO など	○日本一狭い県土に集積しているアートや文化資源と、近年、瀬戸内国際芸術祭の開催を契機として、国内外から高い評価を得ている現代アートを本県の強みと捉え、「香川せとうちアート」ブランドを確立させることにより、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が強い女性層を主なターゲットとするとともに、高松空港に就航している国際定期航空路線を活用して、海外からも観光客を誘致する。
	小豆島滞在促進地区	豊島美術館、豊島横尾館、美井戸神社と ANGER from the bottom など	
	琴平滞在促進地区	金刀比羅宮書院、高橋由一館、鞘橋、高燈籠、旧金毘羅大芝居（金丸座） など	
	丸亀・坂出・宇多津滞在促進地区	猪熊弦一郎現代美術館、東山魁夷せとうち美術館、宇多津古街の家、本島や沙弥島の現代アート など	
	東讃交流地区	引田城跡、五名ギャラリー、池戸公民館、太古の森 など	
	中讃交流地区	旧善通寺偕行社、善通寺宝物館、高見島の現代アート など	
	西讃交流地区	伊吹島や粟島の現代アート、豊稔池堰堤 など	
自然	○「世界の宝石」と称される瀬戸内海の島と海が織りなす穏やかな風景や、瀬戸内海へ向かって緩やかに広がる讃岐平野に、おむすび型の里山や約 1 万 4 千を超えるため池が点在する独特の景観など、本県が有する自然の魅力を全国に向けて情報発信する。		
イベント	○3 年に一度、島々を舞台に繰り広げられる現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」や、彼方に海を望む地で行われる「かがわ・山なみ芸術祭」をはじめ、毎年、継続して開催している「高松国際ピアノコンクール」や「さぬき映画祭」、「香川丸亀国際ハーフマラソン」などの全国規模の誘客イベントを活用したプロモーションを展開する。		

【区域設定の考え方】

○香川県の面積は全国の都道府県の中で最も狭く、全国に占める割合は 0.5%しかない。土地利用度や人口密度は高く、鉄道網（JR・琴電）が県内の大半のエリアを網羅しており、道路整備も進んでいることから、県都高松市を中心として県全域が一日生活圏を形成している。

○県内の大部分が海岸線から 20kmの範囲内にあり、古来から、人、物、文化、情報が、海・島を介して往来し、歴史的に見ても海と陸が不可分一体として発展してきた土地柄であり、島しょ部と内陸部も含め、県全域がせとうち文化圏としての一体性を有している。

○これまでも、県全域を対象とした 1 泊 2 日、2 泊 3 日のモデルルートを設定し、旅行エージェント等に売り込んできたところであり、実際の観光客の動きとも合致している。

○香川県では、2 泊 3 日以上の滞在型観光を推進するため、平成 22 年度から、県内全域（8 市 9 町）を圏域とする「香川せとうちアート観光圏」の整備に取り組んでおり、令和 2 年 4 月 7 日には、観光圏整備法に基づく観光圏として 2 度目の更新認定を受けている。

○当協会は、本区域における DMO としての役割に加え、この「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割も担っている。

【観光客の実態等】

○県外観光客数 H28：約 9,368 千人、H29：約 9,464 千人、H30：約 9,416 千人、R元：約 9,687 千人、R2：約 6,184 千人、R3：約 5,818 千人、R4：約 7,770 千人、R5：約 8,987 千人、R6：約 9,262 千人
（以下、R6の数値）

・どこから ①四国3県 29.0 ②山陽 22.8% ③近畿 22.4% ④関東 10.0%

・観光日程 日帰り 65.0% 県内宿泊 35.0%(平均宿泊日数：1.29 日)

・1 人当たり平均消費額 県外宿泊観光客：29,934 円 県外日帰り観光客：7,105 円

〇外国人延べ宿泊者数　H28：約 358 千人、H29：約 482 千人、H30：約 546 千人、R元：約 772 千人、R2：約 75 千人、R3：約 14 千人、R4：34 千人、R5：445 千人、R6：907 千人
・どこから　①台湾 33.1%　②韓国 19.5%　③中国 18.6%　④香港 8.2%　※令和6年度実績

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

〇古より交通・交流が盛んな地域として発展してきた香川県は、昭和 9 年に日本で初めて国立公園に指定された「瀬戸内海国立公園」の中心に位置し、四国の東北部にある。北は県花・県木のオリーブで知られる小豆島をはじめ、現代アートの聖地として世界的に有名な直島など、大小 110 余の島々が「世界の宝石」と称される瀬戸内海に浮かび、魅惑の風景を醸し出している。南には讃岐山脈が連なり、北に向かって開けた讃岐平野には、おむすび型の里山や約 1 万 2 千を超えるため池が点在し、独特の景観を生み出している。

〇国の特別名勝である栗林公園、こんぴらさんの愛称で親しまれる金刀比羅宮を擁する琴平、寒霞渓やオリーブで有名な小豆島、源平合戦の古戦場でも知られる屋島などをはじめ、全国に誇れる魅力的な観光資源が多数ある。

〇猪熊弦一郎などの数多くの優れた芸術家を輩出するとともに、創作活動の場としてイサム・ノグチなどの世界的な芸術家を引き付けるなど、現代美術を中心とした優れた文化芸術を受け入れてきた個性豊かな地であり、県庁舎東館や丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、地中美術館などの世界的な建築家が設計した建築が数多く存在し、現代建築の面でも衆目を集めている。

〇平成 22 年から 3 年ごとに開催されている瀬戸内国際芸術祭は、「海の復権」をテーマに、世界中から参加したアーティストが、島に暮らす人々と交わりながら作品を作り出し、瀬戸内海の美しい自然と、現代アートの聖地として知られる直島をはじめ瀬戸内の島々に広がるアートが、国内外から高い注目を集めている。

〇平成 27 年 4 月に四国 4 県と関係 57 市町村の共同申請で日本遺産として初認定された「四国遍路」は、時代を超えて受け継がれてきた世界に誇る文化遺産である。

〇国の認定を受けた「香川せとうちアート観光圏」では、瀬戸内海という地域資源と、県内に集積しているアートや文化遺産を活用した「滞在交流型観光」に取り組んでいる。

〇2016 年に「G7 情報通信大臣会合」、2023 年に「G7 香川・高松都市大臣会合」が高松市で開催され、観光振興や地域経済への波及など、地域の活性化が図られた。

〇例年、高松国際ピアノコンクール、さぬき映画祭、香川丸亀国際ハーフマラソンなどのイベントも開催されているほか、地域密着型スポーツチームとして、カマタマーレ讃岐（サッカー）、香川オリーブガイナーズ（野球）、高松ファイブアローズ（バスケットボール）、香川アイスフェローズ（アイスホッケー）がある。

〇県内の有名うどん店に多くの観光客が訪れるなど、讃岐うどんは高い認知度を誇っている。また、瀬戸の地魚や骨付き鳥なども、「香川の食」として注目されている。

〇

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

〇「香川せとうちアート観光圏」整備計画に基づく滞在促進地区の状況

地域・地区	施設数	収容人数（約・人）	備考
主たる滞在促進地区			
①高　松	160	10,000	
内　高松市中心市街地	(90)	(8,000)	
内　塩江	(10)	(1,000)	
内　直島	(60)	(1,000)	
②小豆島	60	5,400	
③琴　平	20	2,800	
滞在促進地区			
①丸亀市・坂出市・宇多津	60	5,000	
内　丸亀	(20)	(2,500)	

内　坂出	(30)	(2,000)	
内　宇多津	(10)	(500)	

【利便性：区域までの交通、域内交通】

○区域までの交通

関東方面から	発地→(手段・所要時間)→経由地→(手段・所要時間)→高松
JRで	東京→(のぞみ約 3 時間 15 分)→岡山→(ﾏﾘﾝﾗｲﾅｰ約１時間)→高松
飛行機で	羽田→(約1時間 20 分)→高松
	成田→(約1時間 30 分)→高松
高速バスで	東京→(約 10 時間)→高松
関西方面から	発地→(手段・所要時間)→経由地→(手段・所要時間)→高松
JRで	大阪→(のぞみ約 45 分)→岡山→(ﾏﾘﾝﾗｲﾅｰ約１時間)→高松
高速バスで	大阪→(約 3 時間 30 分)→高松
フェリーで	神戸→(ジャンボフェリー約4時間)→高松

○域内交通

＜電車＞

・岡山－高松間には、本州と四国との間を唯一、列車で結ぶ瀬戸大橋線が走っている。

・JR四国の高徳線、予讃線、土讃線の各普通・特急列車が運行され、高松琴平電気鉄道とともに、県都・高松市と県内各地を結んでいる。

＜高速道路＞

・高松自動車道によって徳島県、愛媛県と、高知自動車道によって高知県とつながっている。

・瀬戸中央自動車道によって、本州・岡山県につながっている。

＜船・フェリー＞

・高松港をマザーポートとして、瀬戸内海に浮かぶ小豆島や直島等の島々への船の航路があり、その他、生活路線としての離島航路が、数多く運航されている。

【外国人観光客への対応】

○国際定期路線（R7.7現在）

・台北線　:チャイナエアライン　週7便
・上海線　:春秋航空　週4便(火・木・土・日)
・ソウル線:エアソウル　週7便
　ジンエアー　週7便
・香港線　:香港エクスプレス　週7便

○事業概要

・高松空港と国際定期路線が就航している台北、上海、ソウル、香港を利用して同日乗り継ぎが可能なタイなどを主たるターゲットとして、現地でのキャンペーンの実施や旅行展示会への出展、旅行エージェント等の招聘、外国語パンフレットやノベルティグッズの作成・配布等を実施している。

・現地旅行エージェントに対し、本県へのツアー造成・販促支援を行っている。

○外国人観光客の状況(出典:観光庁宿泊旅行統計調査)

・外国人延宿泊者数　･･･H28:約 358 千人、H29:約 482 千人、H30:約 546 千人、R1:約 772 千人、R2:約 75 千人、R3:約 14 千人、R4:約 34 千人、R5:約 445 千人、R6:907 千人

・国・地域別宿泊者数･･･台湾 33.1%、韓国 19.5%、中国 18.6%、香港 8.2%　※令和6年度実績

○環境整備

・本協会が、陸と海の玄関口・サンポート高松のJR高松駅構内に、日本政府観光局の JNTO 外国人観光案内所(カテゴリー3)を設置している。
・本協会では、多言語対応(英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語、タイ語)した Web サイトを利用した一元的な情報発信を行っており、平成 29 年 7 月から、県内の観光案内所や宿泊・観光施設、飲食店などを対象に多言語の通訳・翻訳サービスを行う香川県多言語コールセンターを運営している。
・平成 26 年 7 月から、無料公衆無線LAN「かがわ WiFi」のサービス提供を開始し、順次、スポット数の拡大を図っている。
・栗林公園東門横の「かがわ物産館・栗林庵」等、免税店が整備されている。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	主要観光地におけるアンケート調査を自主事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	観光庁の宿泊旅行統計調査、訪日外国人消費動向調査から収集。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	主要観光地におけるアンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	主要観光地におけるアンケート調査を自主事業として実施。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google Analytics(グーグルアナリティクス)により、月ごとのアクセス数(セッション数、ユーザー数、ページ数)を分析。
圏域外観光客数	誘客に向けて実施した各種施策の効果測定を行うため。	交通機関（JR、船舶、航空機）及び高速道路の利用者数をもとに推計。
平均宿泊日数	滞在型観光推進に向けて実施した各種施策の効果測定を行うため。	主要観光地におけるアンケート調査を自主事業として実施。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

香川県の人口は、平成 11 年の 103 万人をピークに減少に転じ、令和６年 10 月 1 日現在の人口は 91 万人となっている。また、県人口に占める 65 歳以上の割合は 32.9%と過去最高を更新するなど、少子高齢化が進んでいる。こうした地域の課題に対し、観光地域づくり法人（ＤＭＯ）を中心として既存の観光資源を活用した観光地域づくりを行うことにより、交流人口を増加させ、地域経済の活性化を図ることとしている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・瀬戸内海など美しい自然** **・狭い県土に集積するアート**	**弱み（Weaknesses）** **・うどんのイメージが強すぎる** **・県下の各地域が相互に連携する基盤が弱い**

	・伝統に育まれた和の文化 **・“瀬戸芸”ブランド** **・高速道路網の充実** **・国際定期航空路線の充実** **・まち歩きプログラムの実績**	**・2 次交通網が十分とはいえない** **・外国人観光客の受入環境が十分とはいえない**
外部環境	**機会（Opportunity）** **・内需回復による旅行需要の増大** **・円安等による外国人観光客の増加** **・台風など自然災害の少なさ**	**脅威（Threat）** **・価値観の多様化による観光と競合する選択肢の増加** **・観光誘客での地域間戦争** **・県人口の減少・高齢化による営業継続性**

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
・首都圏を中心とした、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が強い女性層

〇選定の理由
・コロナ禍前の令和元年度香川県観光地点パラメータ調査によると、本県を訪れた観光客の居住地は、近畿（30.8%）、山陽（21.2%）、香川を除く四国（19.8%）、関東（12.8%）となっているものの、高松空港から羽田及び成田空港へは1日最大16便の国内定期路線が運航されており、2019 年に開催された瀬戸内国際芸術祭でのアンケート調査でも関東地域からの来場者は 18.3%と、四国地域からに次いで多くなっていることから、第１ターゲットはアートに深い関心を持つ首都圏を中心とした層とした。
・同パラメータ調査によると、本県を訪れた観光客の性別は、女性（53.4%）が男性（46.6%）を約1割上回っており、瀬戸内国際芸術祭のアンケート調査でも来場者の約6割（64.9%）が女性という結果が出ている。また、女性は、楽しかったことや感動したことなどを自分以外の人に伝える傾向が男性に比べると高いと言われており、民間会社の調査によると、スマートフォンで多く利用されているSNSアプリの利用率は、女性の方が高いという結果も出ていることから、ターゲットを、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が高い女性層と設定した。

〇取組方針
・アートや島旅など本県の魅力や楽しみ方等をPRする映像等を制作し、Web 配信や大都市圏での交通広告等を行うプロモーションを展開している。
・観光地や伝統的町並み、芸術・文化資源や産業（農林水産業や製造業など）といった地域資源を活かした個人旅行者向けの周遊型・体験型の旅行商品（滞在プログラム）を造成し、着地型商品を販売することとしている。

〇ターゲット層
・高松空港からの国際定期路線が就航している、韓国、中国、台湾、香港を中心とした外国人観光客

〇選定の理由
・観光庁宿泊旅行統計調査によると、令和元年に本県を訪れた外国人観光客の国・地域別の宿泊者数は、台湾（29%）、中国（27%）、香港（15%）、韓国（11%）で全体の8割以上（82%）を占めていることから、ターゲットを、韓国、中国、台湾、香港を中心とした外国人観光客に設定した。

〇取組方針
・現地でのキャンペーンの実施や旅行展示会への出展、旅行エージェントやマスコミの招聘、外国語パンフレットやノベルティグッズの作成・配布等を実施している。・現地旅行エージェントに対し、本県へのツアー造成・販促支援を行っている。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	「香川せとうちアート観光圏」のブランドコンセプト 瀬戸の恵み　さぬきの旅　～せと、人、アートで　おもてなし～

様式１

②コンセプトの考え方	“世界の宝石”と讃えられた瀬戸内海の島と海が織りなす穏やかな風景。その瀬戸内海へ向かって緩やかに広がる讃岐平野には、ぽっこりとした“おむすび山”がまるで波間に浮かぶ小島のように点在し、のどやかな情景をさらに演出する。 　こうした風土に育まれながら、人々はこの地で和の文化を培ってきた。その伝統美は、江戸文化の粋を集めた栗林公園の大名庭園や、金刀比羅宮、善通寺に代表される寺社仏閣の建物や所蔵品に、今も垣間見ることができる。 　瀬戸内生まれの伝統文化は、これら歴史的文物だけでなく、漆器や盆栽、民芸品などの工芸技術や、郷土料理を支える和食の基本調味料“さしすせそ”の製法にも見られ、この地に住む人々の普段の暮らしの中にしっかりと溶け込んでいる。 　瀬戸内海を揺りかごとして色どり豊かに育まれてきた文化に、近年、アートという新たな色彩が加わった。 　島々を舞台に繰り広げられる現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」や、彼方に海を望む地で行われる「山なみ芸術祭」では、伝統文化との融合や作品が置かれる場所の特性が強く意識され、また、訪れる観光客、アーティストや地元の人たちとの交流も重要なテーマとなっている。 　瀬戸内海の恵みの中で培われた自然、文化、食などが豊かな讃岐での、ゆったりとした、心安らぐ旅を提供する。そして、この地で守り受け継がれてきた技と伝統美に、新たに加わった上質の現代アートなど、様々なアートとふれあい、瀬戸内に広がる明媚な景色や文化、食を五感で楽しみ、ここに暮らす人々とふれあう。そんな「せと、人、アート」にふれる旅を求めて来訪されたお客様を、ゆったりと流れる時間の中で、遍路文化で育まれてきた“おせったいの心”でおもてなしする。

様式１

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	観光圏戦略会議、ワーキンググループ
	県内市町、観光協会、関連事業者をメンバーとする観光圏戦略会議を年に 1～2 回、各地域の観光地域づくりの中心となっている観光地域づくりマネージャーによるワーキンググループを年間 20 回程度開催し、情報共有を実施。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	･インバウンド客が安心して宿泊施設を選択できるよう、宿泊施設の観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」を平成 29 年度から導入。 ･県的なおもてなし力の向上を図るため、本協会を含む県内約 120 団体等で構成する「観光香川おもてなし運動県民会議」を平成 27 年 10 月に設立。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	･多言語対応（英語、中国語（簡体字、繁体字)、韓国語、タイ語）した Web サイトや Facebook を利用した一元的な情報発信を実施。 ・当協会は香川県と連携しながら、Web サイトや SNS 等を通じて、旅行者のエリア内周遊を促すよう幅広く観光地やコンテンツに関する情報を発信、各エリアの詳細な観光情報については、市町や市町観光協会が情報を発信（当協会の Web サイトにリンクを貼るなどして連携)。 ・旅行博への出展や旅行会社との商談会への参加については、より効果的なセールスのため、広域連携ＤＭＯを通じて実施。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（円）	目標	25,900	25,900	25,900	25,300	25,400	25,600
		(28,700)	(29,000)	(29,200)	(70,000)	(72,000)	(75,000)
	実績	30,748	28,611	29,934			
		(—)	(64,000)	(72,000)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	4,250	3,790	4,340	4,891	4,931	4,971
		(720)	(295)	(556)	(926)	(935)	(945)
	実績	3,240	4,366	4,747			
		(34)	(445)	(907)			
●来訪者満足度（%）	目標	22.0	23.0	24.0	28.0	29.0	30.0
		(24.8)	(25.8)	(26.8)	(38.5)	(39.5)	(40.5)
	実績	27.7	29.8	35.1			
		(49.6)	(19.9)	(42.1)			
●リピーター率（%）	目標	77.0	77.0	77.0	75.0	75.0	75.0
		(21.8)	(22.8)	(23.8)	(28.0)	(29.0)	(30.0)
	実績	71.9	76.8	76.5			
		(30.8)	(31.8)	(14.3)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
観光圏整備法に基づき策定した観光圏整備計画における目標数値と同一に設定。

【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
・令和６年までの目標数値
日本人は、観光圏整備計画策定時（R1）における過去 5 年間の平均額（25,900 円）を下回ることのないよう目標値（毎年同額）を設定。外国人は、観光圏整備計画策定時（R1）における過去 4 年間の平均額（27,548 円）を基準とし、毎年 1%増加するよう設定。
・令和７年～令和９年までの目標数値
日本人は、観光圏整備計画策定時（R６）における過去 5 年間の平均額（25,200 円）を基準値とし、毎年 1%増加するよう設定。外国人は、令和５年実績値を基準値とし、（64,000 円）を基準とし、国の「観光立国推進基本計画」の「訪日外国人旅行者数」の目標数値などを参考に毎年４%増加するよう設定。

●延べ宿泊者数
・令和 4 年の目標数値
日本人は、H30 実績（350 万人）を基準値とし、過去 4 年間の対前年増減率平均 0.2%を毎年増加させるよう設定。外国人は、当時の国の観光ビジョンにおける目標である「R12 にH27 実績の 5

倍超の 1,100 千人」に合わせ、H27 実績（21 万人）を基準値として、毎年同率で増加するよう設定。
・令和５年～令和６年の目標数値
コロナ影響前の令和元年実績値（全体：4,659 千人泊、外国人 772 千人泊）を基準とし、国の「観光立国推進基本計画」の「日本人の地方部延べ宿泊者数」の目標数値、「訪日外国人旅行者数」の目標数値などを参考に令和 7 年の目標数値を設定した上で、令和 4 年実績値から令和６年の目標数値までを同じペースで増加する形で設定。
・令和７年～令和９年の目標値
香川県の総合計画令和７年目標値（全体：4,891 千人泊、外国人 926 千人泊）を基準とし、国の「観光立国推進基本計画」の「日本人の地方部延べ宿泊者数」の目標数値、「訪日外国人旅行者数」の目標数値などを参考に令和 11 年の目標数値を設定した上で、令和７年目標値から令和 11 年の目標数値までを同じペースで増加する形で設定。

●来訪者満足度
・令和４年～令和６年の目標数値
日本人は、観光圏整備計画策定時（R1）の過去 5 年間の実績平均(18.0%)を基準値とし、毎年 1 ポイント増加するよう設定。外国人は、同計画策定時の過去 5 年間の実績平均(20.3%)を基準値とし、毎年 1 ポイント程度増加するよう設定。
・令和７年～令和９年の目標値
日本人は、観光圏整備計画策定時（R６）の過去５年間の実績平均(26.0%)を基準値とし、毎年 1 ポイント増加するよう設定。外国人は、同計画策定時の過去 5 年間の実績平均(36.5%)を基準値とし、毎年 1 ポイント程度増加するよう設定。

●リピーター率
・令和４年～令和６年の目標数値
日本人は、観光圏整備計画策定時（R1）の過去 5 年間の平均率（77.0%）を下回ることのないよう目標値（毎年同率）を設定。外国人は、同計画策定時の過去 5 年間の平均実績(17.8%)を基準値とし、毎年 1 ポイント増加するよう設定。
・令和７年～令和９年の目標値
日本人は、観光圏整備計画策定時（R６）の過去 5 年間の平均率（75.0%）を下回ることのないよう目標値（毎年同率）を設定。外国人は、同計画策定時の過去 5 年間の平均実績(26.1%)を基準値とし、毎年 1 ポイント増加するよう設定。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●圏域外観光客数（千人）	目標	9,710	8,570	9,370	10,171	10,255	10,339
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	7,770	8,987	9,262			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●平均宿泊日数（日）	目標	1.23	1.24	1.25	1.26	1.27	1.28
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	1.23	1.27	1.29			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●web サイトページビュー数	目標				6,450,000	6,500,000	6,550,000
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	6,496,258	6,355,715	6,033,865			
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

観光圏整備法に基づき策定した観光圏整備計画における目標数値と同一に設定。
※各指標について、訪日外国人旅行者のみの数値は収集しておらず、目標値も定めていない。

【設定にあたっての考え方】

●圏域外観光客数

・令和４年の目標値

平成 30 年実績(906 万人)を基準値とし、過去３年間の対前年増減率平均(0.77%)を毎年増加するよう設定。

・令和５年～令和６年の目標数値

コロナ影響前の令和元年実績値（9687 千人）を基準とし、国の「観光立国推進基本計画」の「日本人の地方部延べ宿泊者数」の目標数値を参考に令和７年の目標数値を設定した上で、令和４年実績値から令７年目標数値までを同じペースで増加する形で設定。

・令和７年～令和９年の目標値

香川県の総合計画令和７年目標値（10,171 千人）を基準値とし、国の「観光立国推進基本計画」の「日本人の地方部延べ宿泊者数」の目標数値などを参考に令和 11 年の目標数値を設定した上で、令和７年目標値から令和 11 年の目標数値までを同じペースで増加する形で設定。

●平均宿泊日数

・令和４年～令和６年の目標値

観光圏整備計画策定時（R1）の過去 5 年間の平均宿泊日数(1.19 日)を基準値とし、毎年 1%増加するよう設定。

・令和７年～令和９年の目標値

観光圏整備計画策定時（R６）の過去５年間の平均宿泊日数(1.24 日)を基準値とし、毎年 1%増加するよう設定。

●web サイトページビュー数

令和４年および令和５年の実績値と、令和６年については、上期（１月～６月）実績値と令和４年および令和５年下期（７～12 月）の実績の平均を加算して年間の推計値を算出し、令和４年から令和６年までの平均値（6,400 千回）を基準値とし、毎年 50 千回増加するよう設定。

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度（実績）	479,425,948（円）	【受取会費】 6,917,500 円 【事業収益】 1,028,800 円 【手数料収益】 0 円 【使用料収益】 936,440 円 【受託収益】 51,256,700 円 【受取補助金等】 404,379,994 円 【受取負担金】 14,273,824 円 【雑収益】 632,690 円
2023（Ｒ５） 年度（実績）	816,305,407（円）	【受取会費】 6,932,500 円 【事業収益】 524,600 円 【手数料収益】 0 円 【使用料収益】 1,451,080 円 【受託収益】 57,056,340 円 【受取補助金等】 737,554,606 円 【受取負担金】 12,163,599 円 【雑収益】 622,682 円
2024（Ｒ６） 年度（実績）	1,091,482,626（円）	【受取会費】 8,920,000 円 【事業収益】 11,022,860 円 【手数料収益】 0 円 【使用料収益】 2,295,440 円 【受託収益】 43,773,508 円 【受取補助金等】 1,009,957,618 円 【受取負担金】 14,133,649 円 【雑収益】 1,379,551 円
2025（Ｒ７） 年度（見込）	1,266,787,000（円）	【受取会費】 8,860,000 円 【事業収益】 900,000 円 【手数料収益】 10,000 円 【使用料収益】 1,962,000 円 【受託収益】 50,603,000 円 【受取補助金等】 1,192,348,000 円 【受取寄付金】 0 円 【受取負担金】 11,000,000 円 【雑収益】 1,104,000 円
2026（Ｒ８） 年度（見込）	1,266,787,000（円）	【受取会費】 8,860,000 円 【事業収益】 900,000 円 【手数料収益】 10,000 円 【使用料収益】 1,962,000 円 【受託収益】 50,603,000 円 【受取補助金等】 1,192,348,000 円 【受取寄付金】 0 円 【受取負担金】 11,000,000 円 【雑収益】 1,104,000 円

2027（Ｒ９） 年度（見込）	1,266,787,000（円）	【受取会費】 8,860,000 円 【事業収益】 900,000 円 【手数料収益】 10,000 円 【使用料収益】 1,962,000 円 【受託収益】 50,603,000 円 【受取補助金等】 1,192,348,000 円 【受取寄付金】 0 円 【受取負担金】 11,000,000 円 【雑収益】 1,104,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度（実績）	465,735,426（円）	【観光情報発信事業】 57,680,151 円 【観光客誘致事業】 301,730,103 円 【受入態勢整備事業】 93,403,793 円 【収益事業旅行業】 95,212 円 【管理費】 12,826,167 円
2023（Ｒ５） 年度（実績）	817,703,170（円）	【観光情報発信事業】 59,979,520 円 【観光客誘致事業】 636,052,667 円 【受入態勢整備事業】 104,649,830 円 【収益事業旅行業】 178,920 円 【管理費】 16,842,233 円
2024（Ｒ６） 年度（実績）	1,079,469,480（円）	【観光情報発信事業】 63,725,324 円 【観光客誘致事業】 909,060,082 円 【受入態勢整備事業】 86,811,054 円 【収益事業旅行業】 194,841 円 【管理費】 19,678,179 円
2025（Ｒ７） 年度（見込）	1,266,589,000（円）	【公益目的事業】 1,264,250,000 円 【収益事業】 210,000 円 【その他】 2,129,000 円
2026（Ｒ８） 年度（見込）	1,266,589,000（円）	【公益目的事業】 1,264,250,000 円 【収益事業】 210,000 円 【その他】 2,129,000 円
2027（Ｒ９） 年度（見込）	1,266,589,000（円）	【公益目的事業】 1,264,250,000 円 【収益事業】 210,000 円 【その他】 2,129,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

・会員数の増による自主財源の確保。
・県等からの補助金・受託事業の増による基盤の確立。
・収益事業として平成 30 年度から実施している着地型旅行商品の造成･販売に継続して取り組む。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

香川県は、地域連携 DMO である公益社団法人香川県観光協会と連携して魅力ある観光地づくりに取り組みます。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

当協会は香川県全域をエリアとする地域連携ＤＭＯであるところ、県内の地域ＤＭＯ（候補含む）との連携や役割分担等については、関係者が参加する観光圏戦略会議、観光地域づくりマネージャーの会合、ワーキンググループ等の機会を利用して協議を行っている。

【区域が重複する背景】

当協会が香川県全域をエリアとする地域連携ＤＭＯであるため。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

県内の地域ＤＭＯは、各エリアに特化した情報発信やコンテンツ造成等に取組んでいるが、当協会としては、それら取組を県内の他エリアと合わせて県全体として情報発信するほか、各エリアのコンテンツを繋ぐ旅行商品を造成するなど、観光客が県全体を周遊することを目指して各種取組を行っている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

前述の役割分担を基本とし、観光圏戦略会議等で適宜、情報共有を行っていくことで、効率的かつ効果的な活動の遂行が期待できると考えている。

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	伊丹　隆二
担当部署名（役職）	香川県観光協会（課長代理）
郵便番号	760-8570
所在地	香川県高松市番町四丁目１番 10 号
電話番号（直通）	087-832-3360
ＦＡＸ番号	087-861-4151
Ｅ－ｍａｉｌ	hy3152@pref.kagawa.lg.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	香川県
担当者氏名	冨田　史恵
担当部署名（役職）	交流推進部観光振興課（課長補佐）

様式１

郵便番号	760-8570
所在地	香川県高松市番町四丁目１番 10 号
電話番号（直通）	087-832-3360
ＦＡＸ番号	087-835-5210
Ｅ－ｍａｉｌ	fw7531@pref.kagawa.lg.jp

（登録）【地域連携DMO】公益社団法人 香川県観光協会

様式２

記入日：　令和7年7月30日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】 香川県全域（8市9町）
【設立時期】 昭和45年９月21日（H25.4.1 公益社団法人移行）
【設立経緯】 区域の観光協会がDMOに移行
【代表者】 会長　三矢 昌洋
【マーケティング責任者（CMO）】 専務理事　佐藤 今日子
【財務責任者（CFO）】 事務局長　宮﨑　達朗
【職員数】 8人（常勤8人）
【主な収入】 受取補助金等　1,009百万円（令和6年度決算）
【総支出】 事業費1,080百万円、一般管理費20百万円（令和6年度決算）
【連携する主な事業者】
　各市町観光協会等、 わがかがわ観光推進協議会、 てくてくさぬき推進協議会、香川県ホテル旅館生活衛生同業組合、 さぬき瀬戸塾、㈱百十四銀行、（一社）香川県婦人団体連絡協議会、（一社）かがわ県産品振興機構、（一社）全国旅行業協会香川県支部、（一社）日本旅行業協会中国四国支部香川地区委員会、四国旅客鉄道㈱、 高松琴平電気鉄道㈱、 香川県旅客船協会　など

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R４）年	2023（R５）年	2024（R６）年	2025（R７）年	2026（R８）年	2027（R９）年
旅行消費額（円）	目標	25,900 (28,700)	25,900 (29,000)	25,900 (29,200)	25,300 (70,000)	25,400 (72,000)	25,600 (75,000)
	実績	30,748 (—)	28,611 (64,000)	29,934 (72,000)			
延べ宿泊者数（千人）	目標	4,250 (720)	3,790 (295)	4,340 (556)	4,891 (926)	4,931 (935)	4,971 (945)
	実績	3,240 (34)	4,366 (445)	4,747 (907)			
来訪者満足度（%）	目標	22.0 (24.8)	23.0 (25.8)	24.0 (26.8)	28.0 (38.5)	29.0 (39.5)	30.0 (40.5)
	実績	27.7 (49.6)	29.8 (19.9)	35.1 (42.1)			
リピーター率（%）	目標	77.0 (21.8)	77.0 (22.8)	77.0 (23.8)	75.0 (28.0)	75.0 (29.0)	75.0 (30.0)
	実績	71.9 (30.8)	76.8 (31.8)	76.5 (14.3)			

戦略

【主なターゲット】
①首都圏を中心とした、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が強い女性層
②高松空港からの国際定期路線が就航している、韓国、中国、台湾、香港を中心とした外国人観光客

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
①アートや島旅など本県の魅力や楽しみ方等をPRする映像等の制作、着地型旅行商品の造成
②現地でのキャンペーン実施や旅行展示会への出展、旅行エージェント招聘、外国語パンフレット作成等

【観光地域づくりのコンセプト】
　瀬戸の恵み さぬきの旅～せと、人、アートでおもてなし～

具体的な取組

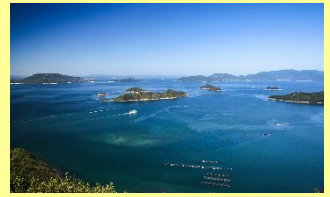
【観光資源の磨き上げ】
　観光地や伝統的町並み、現代アートをはじめとする芸術・文化や産業など、本県の豊かな地域資源を生かした周遊型・体験型の旅行商品の造成を実施。

【受入環境整備】
　観光案内所（高松オルネ北館1F）を運営するとともに、外国人観光客等の利便性向上のため、高松空港の観光案内所への支援を実施。

【情報発信・プロモーション】
　高松空港国際定期路線の就航先であるソウル、上海、台北、香港等を中心にSNSを活用した情報発信を実施。

【その他】
　「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとして各種取組を実施。

特別名勝 栗林公園


瀬戸内海の多島美